

平成29年度 全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成29年4月18日(火)に、3年生を対象として、「教科(国語、数学)に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

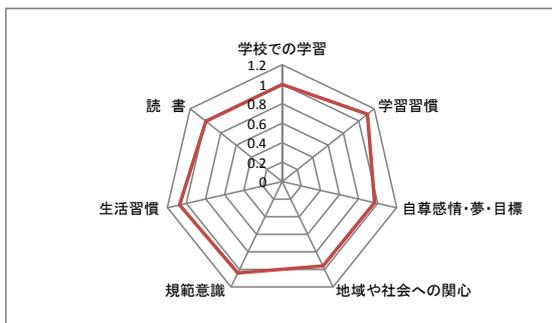
学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 教科に関する調査結果の概要

教科・区分	学力調査の分析(傾向や特徴)	全国平均正答率との比較
国語A	・全体的には全国平均正答率を上回っており、文脈に即して漢字を正しく読むことができていた。 ・事象や行為などを表す多様な語句について理解する必要がある。	上回っている
国語B	・全体的には全国平均正答率を上回っており、幅広く言語知識理解の基礎ができていた。 ・書く力を問う問題にやや課題があり、書くことを習慣化する必要がある。	上回っている
数学A	・全体的には全国平均正答率をやや上回っていたが、簡単な計算問題を含め、分数の入った連立方程式が苦手である。 ・朝自習などで、基礎的な計算力をつける必要がある。	同程度である
数学B	・応用問題に対しても、粘り強く取り組むことができるようになった。数量についての知識・理解が高くなり、説明する力が備わっている。 ・今後は図形問題を、筋道を立てて証明する力をつける必要がある。	上回っている

2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析

- ・携帯電話やスマホの利用時間が少なく、自分で計画を立て、3時間以上学習する生徒が多い。
- ・家族や先生から見守られている意識が高く、生活習慣の確立や規範意識の醸成についても学校と家庭が連携して効果をあげている。
- ・地域との関わりや国際的視野は低いので、自分や家族以外の社会や世界にも関心をもたせ、グローバルな視野で物事を考え、行動に結び付けさせることが必要である。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

- ・スクールプラン達成目標の1つとして、「めあて」「まとめ」「ふりかえり」を全ての授業で確実にを行い、話し合い活動と書く活動を推進していく。
- ・学力定着サポートシステムを朝自習の時間等に、全学年計画的に実施していく。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- ・早寝早起き朝ごはん運動を基に遅刻0を継続するとともに、生活ノートを活用して家庭学習の取組を充実させる工夫をする。様々な機会を利用して家庭への啓発を図っていく。
- ・朝自習や放課後の時間を活用して、補充学習に力を入れていく。